2023.03.28 更新

ICT を活用した鑑賞学習実践例

〔活動１〕人物画を観察しよう

〔活動 2〕絵の中の色を取り出そう

対象学年の目安　小学 5～6 年生

所　要　時　間　45 分（1 時限完了）

準備するもの　学習用タブレット端末（教員、児童数）、プロジェクター、投影用スクリーン（教員用端末の画面を投影）、ワークシート、筆記用具

市販の 50 色折紙などを付箋紙大に切ったもの（児童数分／裁断機を使用すると短時間で用意が可能／少人数での活動であれば、あらかじめスタンプなどで色に番号を振っておくと活動中の共有がしやすい）

＊学習支援ソフトはロイロノートを使用

＊美術館では日本色研トーナルカラーB6 判 93 色組を 10 等分(6.4×3.6 ㎝程度)したものを使用

学 習 の 目 標

① 授業を通して作品の細部および全体をよく見る姿勢、作品の特徴や自分が気づいたことなどを言葉で説明する姿勢を身につける

② 今後、学級内での相互鑑賞や表現活動に役立つよう、それぞれの色の特長や個性、組み合わせのよさや美しさなどについて感じ取ったり考えたりする

③ 作品に使われている色に着目し、明暗や濃淡、色味などを見比べながら、見え方やイメージの違いに気づき、色使いに関する作者の工夫に意識を向ける

学 習 の 過 程

	学習活動	留意点
5 分	〔導入〕 名古屋市美術館の作品を鑑賞しよう 美術館にある作品画像を使って学習用端末で作品鑑賞ができることを把握する	・ロイロノートの授業ノートをスクリーンに映し全員がよく見えるようにする（全員の意識を教室前方へ集中させるため、最初は個々の端末には配信しない。以後、活動に応じて配信／画面ロックを行う） ・訪問経験や、児童が美術館について知っていることなどを尋ねる ・名古屋市美術館の公式サイトを見せながら、美術館がどういう場所か、どんな作品が見られるのか、紹介する
15 分	〔活動１〕 人物画を観察しよう （1）人物画 2 点（加藤静児《婦人像》とスーチン《農家の娘》）のうちから 1 点を選び、各自の端末で拡大するなどして自由に見る （2）各自選んだ作品について、人物の髪型や衣服、表情、ポーズ、周りの様子な	（3）教員（またはアシスタント）は板書するか、可能なら各自の発言をロイロノートのカードに打ち込み、視認できるようにする （3）児童の発言に対し、「それは絵のどこから分かる？」「何色？」「どんな（形）

	ど、気づいたことをワークシートにメモする (3) 挙手などにより発言し、クラス全体で確認する (4) 最後に全体をみて気づいたことを自由に発言する	～？」などの質問を返して発言内容を掘り下げる。発言する度、さらに詳しい説明が必ず求められると児童が認識するぐらいくり返す (4) 細部までよく観察できたことをほめつつ、別の視点をもたせるため、挙手で発言させる。出た意見は板書または(3)とは別のロイロノートのカードに打ち込む (4) 意見が出なければ、それぞれの人物に対する印象を尋ね、それは絵の中のどこを見て思うのか等、質問を重ねる
20分	〔活動２〕 絵の中の色を取り出そう (1)クラス全員が一束ずつ93色の色紙を受け取り、どんな色があるか確認する (2) 活動１で選んだ作品に使われている色はどんな色か、何種類の色があるか、改めてよく観察し、手元の色紙を直接タブレットにかざしながら、最も近い色を選んでいく (3) 同じ色が作品の中でくり返し使われている場合は、どことどこで使っているか、気づいたことをワークシートに記入する (4) そっくりの色が見つからない場合も「●番の色より少し明るい」「●番の色をもっと赤くした感じ」など色に対して感じたイメージをワークシートに記入する (5) 選んだ色紙を机に並べ、タブレットのカメラ機能で写真に撮り、ロイロノートの指定された提出箱へ送る（この時、選ばなかった色紙は束ねて脇に置いておく） (6) クラス全体で結果を共有し、気づいたことについて自由に発言する	(2) 作品のどこから色を取り出す作業を始めてよいか悩む児童には、例えば加藤静児《婦人像》の女性の傍らにある鼓の部分だけ、スーチン《農家の娘》の女性の顔周り（髪、目、鼻、口など）、首と背景まで、など範囲を絞って取り組むように促す (5) 写真は机の真上から見下ろすように撮らせる。影が入らないよう気を付ける (6) 選んだ色同士を見比べて気づくことは何か、それぞれの色が絵の中でどのぐらいの割合で使われているか、友達の結果と自分の結果を見比べて気づくことは何か、などを尋ねる 例：「●色だけでも種類がこれだけあったね」「作品の中で最も広い面積を占めていた色は？」「最も目立っていた色は？それはなぜ目立つのだろう？」「作品の中で同じ色をくり返し使う理由は何だろう？考えたことを発表してみよう」等 (6) 他の児童が気づいていない色を見つけた児童には、作品のどこに使われていたか尋ねる
5分	〔ふりかえり〕 「今度絵を描くとき色使いで工夫してみたいこと」を紙のワークシートに書く	・「今日の授業で気づいたこと、わかったこと」「友達の意見でなるほどと思ったこと」に変更してもよい ・時間があれば児童に発言させる

内容のアレンジ

① 本授業案では口頭での発言を中心としたが、補助教員がロイロノートのカードに記入するなどの方法で発言の記録を残すことを推奨する。児童の習熟度から端末への入力（キーボード、タッチペン）に支障がない場合はそれに代えることも可能だが、その場合も必ず共有の時間を設け、議論を深める問いかけを忘れずに行う。色は個々人の視覚や印象に左右されやすく言葉での共有が難しい要素の一つでもあるため、あらかじめ番号を振っておくなど共有しやすい工夫をしておくことが望ましい（スタンプを押す、裁断前に印刷する、など）。

② 色を取り出す範囲を作品の一部に絞るか、全体に広げるかによって、難易度や活動時間を変えることができる。低学年であれば前者の方が集中して短時間で取り組みやすく、高学年では作品全体を見渡し、使われている色だけでなく、その配置による印象の違いなどにも気づく可能性がある。

留意点

＊明度・彩度・色相など中学校で学ぶ知識にここで触れる必要はないが、活動を通して経験的に明暗や濃淡など色のわずかな違いや系統色のまとまり、隣り合うと対比が際立つ組み合わせ（補色）、同じ色をくり返し使うことによる調和や統一感、リズムなどに気づき、色への関心を高められるとよい。

使用画像

① 加藤静児《婦人像》1910 年頃　https://jmapps.ne.jp/ncam2/det.html?data_id=231

② ハイム・スーチン《農家の娘》1919 年頃　https://jmapps.ne.jp/ncam2/det.html?data_id=289